



No.48

UT University Forests News

# 科学の森ニュース

December 10, 2009

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

## 旭川 森林の市(もりのいち)に出店しました

北海道演習林

旭川近辺の林業関係者による一般市民向けの道産材PRイベント「森林の市」が2009年8月9日(日)に開催されました。北演は3回目の参加で、今回は販売部門と広報部門に分けてみました。

販売部門では、空洞丸太の輪切り材や樹木の二股部分を利用した花台など、演習林ならではの商品を販売しました。広報部門では、丸太切り体験やフィールドサイン<sup>注)</sup>に関する展示と解説など、自然を見て触れて学べる企画を用意しました。どちらの部門にもリピーターを含めたくさんの方が足を運んで下さり、「演習林の森を見学したい」「来年もどのような商品が販売されるか楽しみ」といった声を頂きました。



丸太切り体験に挑戦！

注) フィールドサイン：動物が残した足あと、フン、食べあとなどの痕跡(こんせき)

「科学の森ニュース」のバックナンバー(PDF形式)は東京大学科学の森教育研究センター(演習林)のホームページからダウンロードすることができます。(http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/)

## フィールドで考える野生動物の保護管理

### 千葉演習林

2009年9月8日(火)～11日(金)、本学教養学部の学生を対象とした全学体験ゼミナール「フィールドで考える野生動物の保護管理」を開催しました。1980年代から急増している房総半島のニホンジカやイノシシ被害について、市の担当職員・農林家・有害駆除員・研究者にインタビューし、様々な立場からヒトと野生動物の関わりを学びました。その他にも、防獣柵の設置作業やラジオテレメトリー<sup>注)</sup>による調査の体験、防獣柵内外の植生調査、解剖による栄養状態等の観察・・・夕食にはシカ、イノシシ肉も。まさにシカとイノシシづくしの4日間でした。

注) 動物に小型電波発信器を装着し、行動を追跡する手法



川原でのシカの解剖

## みどりの海・東大演習林で源流たんけん隊

### 愛知演習林

愛知県内の自然環境団体・施設の連絡協議会であり、愛知演習林も参加している「あいち自然ネット」の主催事業として、2009年8月20日(木)に赤津研究林で「みどりの海・東大演習林で源流たんけん隊」が開催されました。

快晴で30℃近い暑さの中、親子18名が、演習林の森の音や、鳥の声を聞きながら、矢田川の源流のひとつを目指しました。川に沿った道を歩いて流れを遡り、水が湧き出ている源流地

点まで到達しました。水温18～19℃の冷たい川に浸かり、サワガニ、カワヨシノボリ、トノサマガエルとも出会いつつ、楽しい一日を過ごしました。



源流までもう少しだ。みんな頑張れ!

## 平成21年度技術職員等試験 研究・研修会議が開催されました

### 富士演習林

2009年11月4日(水)～5日(木)に、装い新たな山中寮内藤セミナーハウスを会場に、平成21年度技術職員等試験研究・研修会議が開催され、13題の発表をメインに白石林長の講話、林内での現地研修などが行われました。本研修会議は、1985年に千葉演習林で第1回目が開催されてから今回で25回目となり、四半世紀の歴史の中で内容も年々充実してきています。また、大勢の職員が集まるよい機会でもあり、懇親会などでも、普段の業務などについて、熱心な議論が行われました。来年度は樹芸研究所で開催予定で、さらにレベルをあげながら、歴史を重ねていきたいと思えます。



湖畔広場での参加者集合写真(背景は富士山)

2009年10月13日(火)～14日(水)の2日間、韓国のソウル大学で第3回アジア大学演習林シンポジウムが開催されました。東京大学、台湾大学での開催に続くものです。東大から、筆者のほか蔵治講師、田中助教、技術職員の村川、五十嵐、相川の計6名が参加しました。他大学からは、主催者のソウル大学のほか、台湾大学、インドネシアのボゴール農科大学、フィリピン大学ロスバニオス校の参加がありました。初日のシンポジウムは、歓迎の挨拶のあと各大学からの発表がありました。森林病虫害の予防、動植物の生息数モニタリング、環境教育の普及促進、地域住民との連携による持続的な森林の利用など内容は多岐にわたり、大学演習林が気候変動問題に対して重要な役割を果たしていることを確認しました。シンポジウム終了後、バスで高速道路を南下し、ソウル大学南部演習林の Chusan 実験施設に宿泊しました。南部演習林は、戦前に東大演習林だったところで、当時の水文堰堤などが残されています。二日目は南部演習林の見学のあと、ヒノキ・カラマツ・スギの造林地の見学を行い、ソウルへ戻りました。シンポジウムの開催に尽力された、ソウル大学の皆さまにお礼申し上げます。



### 演習林のイベントダイジェスト 詳細はホームページをご覧ください、各演習林にお問い合わせ下さい。

#### 9月

- 17日 大屋・千島両技術職員が森林管理技術賞を受賞◆
- 18, 20日 蔵治講師が専門家としてNHKに出演◆(愛知)

#### 10月

- 3日 東大教職員向け特別ガイド「富士演習林のきのこ」◆(富士)
- 10日 サポーター養成講座「森林の公益的機能」◆(秩父)
- 10, 24日 体験ゼミ「キノコに親しむ」☆(田無)
- 11日 子ども自然塾◆(北海道)
- 17～18日 体験ゼミ「キノコに親しむ」☆(富士)
- 27日 天津小学校「緑の教室」◆(千葉)
- 30, 31日 自由見学日(秩父)
- 31日 鴨川市交流事業「東大キャンパスツアー」◆(千葉)
- 31日 地域対象公開講座「秋の東大の森を歩く」◆(富士)

#### 11月

- 1日 第15回「子ども樹木博士」認定活動(田無)
- 1, 28, 29日 秋の休日一般公開(田無)
- 7日 鴨川市交流事業「野鳥の巣箱をかけよう」◆(千葉)
- 7, 8日 ワサビ沢展示室特別開室(秩父)
- 14日 サポーター養成講座「秩父演習林と秩父地方の歴史」◆(秩父)
- 19日 サポーター養成講座「森林における安全管理」◆(秩父)
- 28～29日 総合科目「森をはかる」☆(富士)
- 28, 29日 秋の一般公開(千葉)

#### 12月

- 2日 利用者説明会◆(秩父)
- 5日 親子対象公開講座「落ち葉たき」(富士)
- 5, 6日 秋の一般公開(千葉)
- 5, 6日 学生・生徒・教員のための水源林学習ツアー◆(愛知)
- 6日 影森祭(秩父)
- 10日 サポーター養成講座「森林環境教育」◆(秩父)
- 12～13日 体験ゼミ「森のエネルギーを使いこなす」☆(富士)

#### 1月(2010年)

- 16, 20日 公開講座「冬の森を歩こう」(千葉)
- 16～17日 体験ゼミ「森のエネルギーを使いこなす」☆(秩父)

#### 2月

- 3日 森林博物資料館公開(千葉)
- 7日 犬山市との共催によるシンポジウム(愛知)
- 13～16日 体験ゼミ「伊豆に学ぶ1」☆(樹芸)
- 13日 教職員向け特別ガイド「厳冬の森林散策」◆(富士)
- 15～17日 体験ゼミ「絶不調愛知」☆(愛知)
- 23～26日 体験ゼミ「伊豆に学ぶ2」☆(樹芸)
- 23～26日 学内技術職員研修「森林情報の収集と解析」◆(富士)

#### 3月

- 7日 公開講座「マツ枯れ跡地に一緒にマツを植えませんか」(愛知)
- 23～26日 体験ゼミ「山岳地形の3D表示入門—山に分け入る前に—」☆(愛知)

凡例・・・無印:一般向け ☆:学生向け ◆:その他

## オオワシ・オジロワシ

タカ目 タカ科

学名：*Haliaeetus pelagicus* ・ *Haliaeetus albicilla*

いずれも冬期にロシア極東地域から北海道に渡ってきて越冬する大型の猛禽です。サケなどの魚を主食としているので「海ワシ」といわれ、その多くはオホーツク海沿岸部で越冬しています。かつては富良野地方で見られることはほとんどありませんでしたが、10年くらい前からよく目にするようになりました。

近年エゾシカの個体数が急増し、その死体を餌資源として利用するようになったためと言われています。現に、エゾシカが越冬地として集まってくる西達布川や、布部川の流域で多く観察でき、翼を広げると2m以上にもなるその勇壮な姿に圧倒させられます。

北海道演習林



オジロワシ



オオワシ

## 名所名物案内

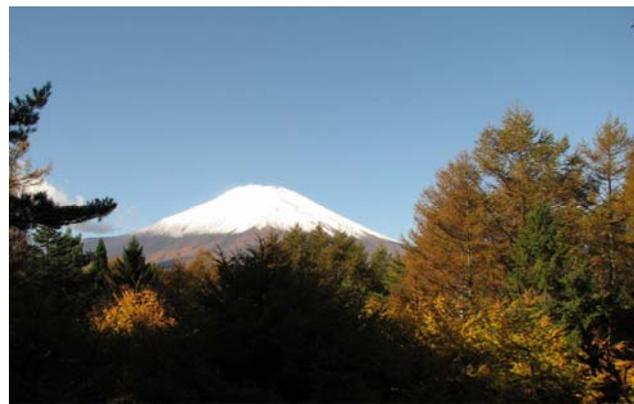
### 富士山景観観測塔

富士演習林

富士演習林は富士山麓に位置するものの大半がカラマツなどの樹高20m以上の木々で覆われているため、富士山を直接望める場所は限られています。1ヶ所は湖畔広場で、もう1ヶ所がこの富士山景観観測塔です。現在の観測塔は2代目で、富士演習林産のヒノキ間伐材を使用し、平成16年に手前のグイマツの成長に合わせて建て替えられました。高緯度地域に自生し、大木にもなるグイマツですが、富士演習林では植栽後40年以上が経過した現在も樹高は5mほどのため、以前よりこの場所が景観観測ポイントになっていました。ここから四季折々の自然と富士山の眺望を楽しむことができます。



実習で訪れ観測塔に上がった学生たち



観測塔から眺められる紅葉シーズンの富士山

### 科学の森ニュース (UT University Forests News)

第48号 (No.48)

発行日 平成21年12月10日

発行人 白石則彦

編集人 石橋整司

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林研究部

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

E-mail mori2008@uf.a.u-tokyo.ac.jp